

# INFORMATION *Circular*

THE JAPANESE SOCIETY OF DEVELOPMENTAL BIOLOGISTS

<http://www.bcasj.or.jp/jsdb>

**HP記事随時更新中(サーキュラーより早い)!**

**求人記事・集会案内記事大募集中!!**

- 第34回日本発生生物学・ISDB合同大会準備委員会より……………1
- 庶務連絡 (E-mailアドレスについて) ……………1
- 2001年度日本発生生物学会運営委員会議事録……………2
- 学術会議報告……………7
- 教官公募・ポスドク募集の案内……………11
- 研究助成金・各種募集案内……………12
- 会員異動……………14
- 入会案内・広告掲載のお願い……………17

---

# NO.98

APRIL 2001

---

## 日本発生生物学会

〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉

東北大学大学院理学研究科生物学

---

会 長：〒 606 京都市左京区北白川追分町  
-8520 京都大学大学院生命科学研究科  
竹市雅俊 (Tel: 075-753-4196)  
(Fax: 075-753-4197)  
(e-mail: takeich @ take. biophys. kyoto-u. ac. jp)

DGD編集主幹：〒 153 東京都目黒区駒場3-8-1  
-8902 東京大学大学院総合文化研究科生命系  
浅島 誠 (Tel: 03-5454-6632)  
(Fax: 03-5454-4330)  
(e-mail: asashi @ bio. c. u-tokyo. ac. jp)

事 務 局：〒 980 仙台市青葉区荒巻字青葉  
-8578 東北大学大学院理学研究科生物学教室  
Tel: 022-217-3489 Fax: 022-217-3489  
e-mail: jsdb@jcasj.or.jp  
(幹 事 長) 井出宏之 (Tel: 022-217-6691)  
(庶務幹事) 田村宏治 (Tel: 022-217-3489)  
(会計幹事) 出口竜作 (Tel: 022-214-3413)

学会センター：〒 113 東京都文京区本駒込5-16-9  
-8622 財団法人 学会事務センター  
日本発生物学会担当係 (Tel: 03-5814-5810)  
e-mail: jsdb @ bcasi. or. jp

日本発生物学会への入退会、住所・所属変更、会費納入、および出版物（インフォメーション・サーキュラーなど）の郵送については、上記の日本学会事務センターに書面またはe-mailでお問い合わせ下さい。なおDGDにつきましては直接、ブラックウェルサイエンス社にお願いいたします (Fax: +61-39349-3016)。

### サーキュラーへの投稿募集

日本発生物学会サーキュラーは会員の皆様の情報誌として年3回発刊されます。学会に対する提言、研究雑感、実験手法、学会見聞記、関連学会案内、書評等どのような内容でも結構ですので、是非事務局にお寄せ下さい。

# カール ツァイス パーソナルコンフォーカルシステム

## LSM 5 PASCAL

Personal LASer Scanning confoCAL

**New!**

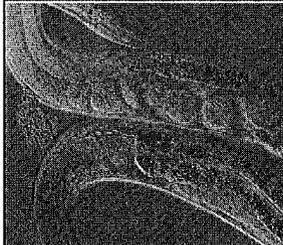
新設計の小型軽量化スキャンング  
モジュール

**New!**

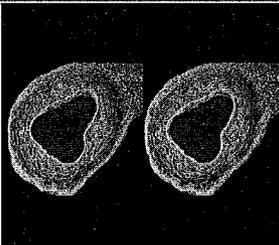
新開発レーザーコントロール・  
モジュール

**New!**

ユーザが簡単に交換可能な  
ビームスプリッター、  
蛍光フィルター類



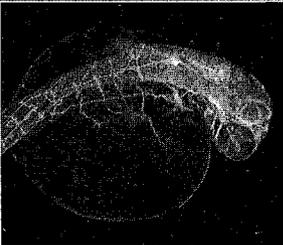
*C. elegans with embryos, autofluorescence + DIC, (single frame out of time series). (Sample courtesy of Dr. Afag, MBL Woods Hole)*



*Fetal small intestine, double fluorescence, stereo projection (Dr. Hashimoto, Jikei University, Tokyo)*



*Drosophila brain, neural circuit indicated with GFP (Dr. Ito, NI of Basic Biology Lab, Okazaki)*



*Zebrafish embryo, neurons (green), NCAM (red) (Dr. Marx, Dr. Bastmeyer, Uni Konstanz)*

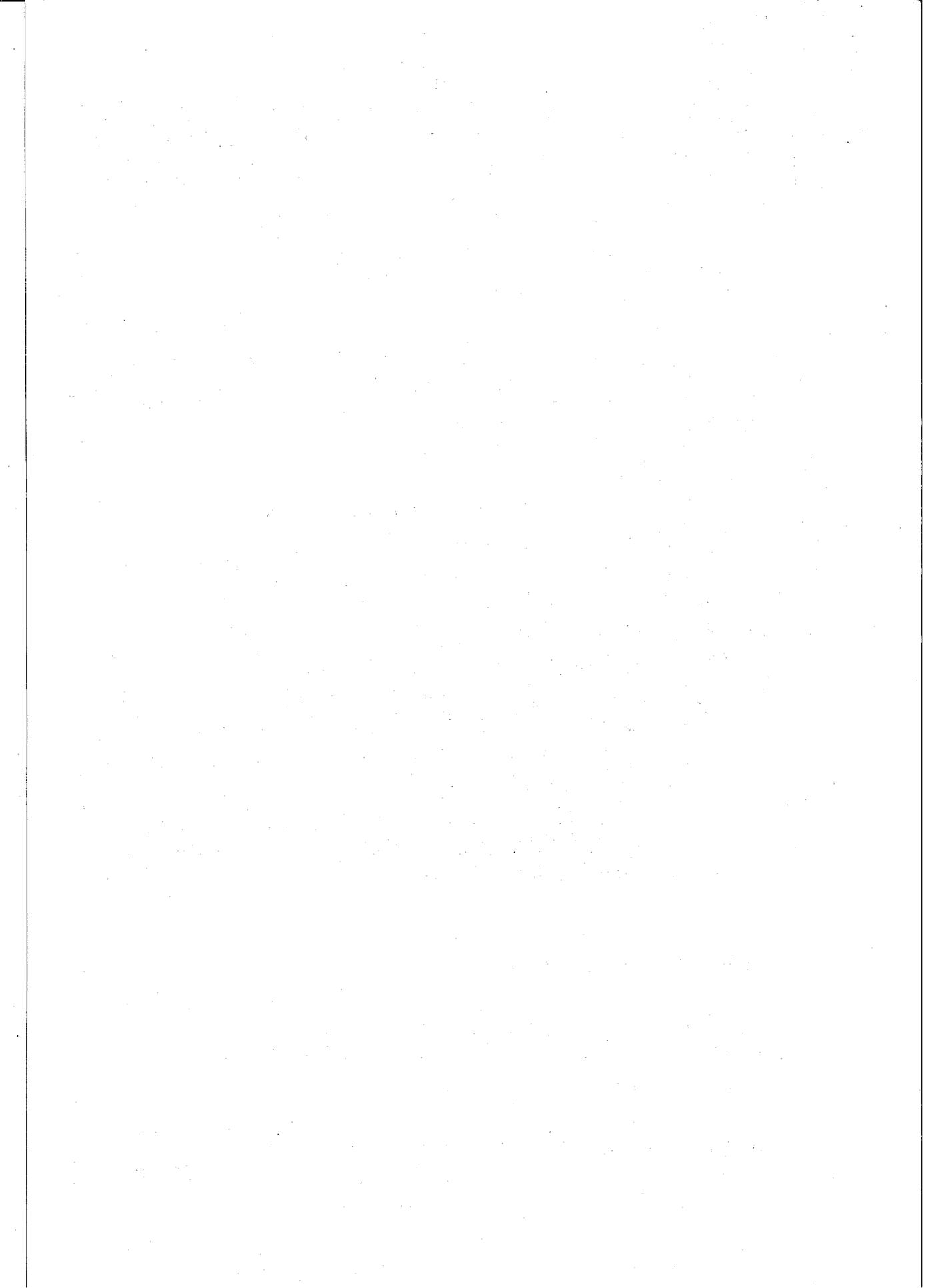
- システムはフルオートでコントロール及び設定可能
- 2048 x 2048/12bit/各チャンネルの高画質
- DSP技術を用いた多彩なスキャンモード
- マルチトラッキングスキャンにより、多重蛍光標本の蛍光波長のかぶりを解消
- 多彩な2D、3D解析機能と、画像管理に便利なイメージデータベース
- タイムコースソフトウェアによる多彩な時間解析機能、外部トリガ機能

このほかにも数多くの新開発・新設計・すぐれた技術が搭載されております。

輸入/販売元  
**カール ツァイス 株式会社**  
顕微鏡部

〒160-0003 東京都新宿区本塩町 22 番地  
Tel 03-3355-0332 Fax 03-3358-7554  
URL <http://www.zeiss.co.jp>  
営業所：大阪/名古屋/福岡/仙台





## 第34回日本発生生物学・ISDB合同大会準備委員会より

ポスターセッションの発表は、まだ受け付けています。この機会を利用して、最新のデータを世界に発信して下さい。

詳細はホームページをご覧ください。

### 庶務連絡 (E-mailアドレスについて)

学会事務局といたしましては、重要な庶務連絡に即効性を持たせること、さらに近い将来(2年後を目標)、本サーキュラーのon line化の実現に向けて努力してまいりたいと強く思っております。サーキュラーのon line化は、学会運営における経費削減のために非常に重要な案件です。会員みなさまのご支持・ご協力をなにとぞよろしく願いいたしますとともに、ご意見をどしどしお寄せください。これらのことはホームページ委員会の活動と密接に関わっていますので、同委員との議論の元いくつかの方針を定めました。本年度総会においてもご報告したいと思っておりますが、詳しくは本サーキュラーの運営委員会議事録をご参照ください。

正確な庶務連絡の伝達のためには、みなさまのE-mailアドレスの正確な管理が必要となります。昨年末、試みにE-mailを用いて庶務連絡をさせていただきましたが、数多くのE-mailアドレスが配達不能でメールが返送されてしまいました。このままでは、庶務連絡のためにE-mailを使用することは不可能です。そのような内容をお含みいただき、春の異動などでE-mailアドレスを変更された場合などは、お手数ではありますが必ず下記までご連絡ください。また、次のいずれかの場合に該当する方は、下記アドレスあるいは電話番号にご連絡いただけますようよろしくお願いいたします。総会などでご報告しておりますように、E-mailアドレスの機密保持などの管理はきちんと行っております。

- (1) E-mailをお持ちでありながら、そのアドレスを発生生物学会にご登録されていない方は、是非、すぐにお知らせください。
- (2) 登録してあるにもかかわらず入力ミスによって正確なE-mailアドレスが登録されていない場合は、その旨すぐにお知らせください。登録アドレスは会員名簿をご参照ください。

(3) E-mailを御使用になっていない方、登録したくない方は、お電話でその旨お知らせください。もちろんそれらの会員の方々のケアもしてまいります。

連絡先：E-mailアドレス jsdb@bcasj.or.jp

電話番号、03-5814-5801

Fax、03-5814-5820

日本学会事務センター内 発生生物学会担当まで

なお、本内容に関するご質問、ご意見は、上記アドレス、あるいは庶務幹事：  
田村 宏治（東北大、022-217-3489）までご連絡ください。

## 2001年度 日本発生生物学会運営委員会 議事録

日時：2001年1月27日（土曜日） 14:30～16:30

場所：仙台ガーデンパレス 会議室

出席者：竹市 雅俊（会長）

阿形 清和、井出 宏之、黒岩 厚、小林 悟、近藤 寿人、佐藤 矩行、  
高橋 淑子、武田 洋幸、野地 澄晴、藤澤 肇、星 元紀、八杉 貞雄  
（運営委員）

浅島 誠（DGD編集主幹）

出口 竜作、田村 宏治（事務局）

会長挨拶のあと引き続き、報告、審議に入った。

### 報告事項

#### ①事務局報告（井出幹事長）

会員数（2001年1月現在）

・国内	正会員	1056名
	学生会員	321名
	賛助会員	4名

・ 国外 正会員 46名

会員総数 1427名

(昨年同時期に比べて、40名減。これは6年間以上の会費未納者を2年ぶりに除名処分としたためである。)

## ②DGD編集委員会からの報告(浅島DGD編集主幹)

・ 投稿論文数は増加傾向にある。ただしreview article数が不十分。

・ review articleについて

\*non-invitedでもreviewを受け付ける。

\*review editorがreview号を組織して作成することを検討。

\*workshop, symposiumなどをmini-reviewとして取り上げていく。

\*日本の発生学に固有な(独自の)よい研究のreview articleを求め作っていく。

・ on line化について

1年間は内容をオープンにする予定である。

ブラックウエルとの話し合いを、会員にメリットのある方向で進めており、今後  
もそのように進めていく。

・ 年間6号から9号へ増刊を引き続きの検討課題としている。

・ ISDBのabstract集をDGDのsupplementとして発刊する。

・ Acceptから印刷までの期間短縮の努力

校正がかなりの律速段階となっているので、校正時間の短縮をAuthorに求める。

遅いものは次号にまわすなどの処置を取り、できるだけはやい印刷・配布を行う。

・ これらに対し、運営委員から次のような意見が出された。

On lineだけの購読を認めるのかどうか。

これについては、予算がからむ事項なので、事務局、ブラックウエルと連絡を取り  
合いながら検討を行い、次回の運営委員会で報告することとなった。

## ③第34回日本発生生物学・ISDB合同大会準備委員会からの報告(竹市準備委員長)

・ ホームページ上だけでの投稿という初めての試みを行った。

\*4000部のポスターの配布を全世界に向かって行うとともに、Development、  
Developmental biology、Journal of Cell Biologyへの広告の掲載を行った。

\*E-mailによるダイレクトメールでの宣伝も行った。

\*1000演題近くがすでに集まっている。まだ増える。締切日はDGDの印刷ま  
での締切。 2月15日までとしているが、まだ延ばすことが可能。発生生

物学会のホームページを参照して欲しい。

\*反省点。投稿の方法が、難しかった。

- ・招待講演者も確定しつつあるが、プログラムも含めてまだ流動的でこれからが大変であろう。
- ・さまざまな連絡・情報がホームページ上に掲載されるので、随時参照して欲しい。

#### ④ 2002年大会（細胞生物学会とのジョイント開催）について（八杉準備委員長）

- ・ 日程と会場の説明

2002年（平成14年）5月20日（月）－24日（金）のうち3日間、場所は横浜のパシフィコ横浜を予定している。

- ・ 細胞生物学会とのジョイントで行われるため、早目に日程・プログラム・参加費・投稿方法などを検討したい。またそれぞれの学会の独自性は維持する方向で計画をたてる。
- ・ 資金調達に困難が予想される。会員の皆様のご協力をお願いしたい。

#### ⑤ 学術会議報告(星委員)

- ・ 第18期学術会議の活動方針が報告された。
- ・ 動物研連と植物研連など部を越えて、教育問題や博物館運営問題などに関して協議していくことなどが説明された。

#### ⑥ 生物科学学会連合連絡会議および細胞生物学研究連絡委員会報告（井出幹事長）

- ・ 連絡委員会議事の報告が行われた。細胞生物学・発生生物学研連への改革はまだ合意に至っておらず両学会での引き続きの審議事項とされていること、国際対応への取り組み、女性学術会議委員を増やすための取り組み、などが審議されたことが報告された。

#### 審議事項

##### ① 会計報告(西駕前会計幹事)

- ・ 2000年度決算案の報告。
- ・ 2001年度予算案の提案。

予算案は草案であり、事務局で最終案を作成し決算案とともに7月の総会にかけることが承認された。

## ②会計監査委員の選出

- ・ 会計監査員として、東北大学大学院薬学研究科 倉田 祥一郎 会員が提案され、承認された。

## ③ホームページ委員会から（阿形委員長）

- ・ ホームページ委員会の活動報告がなされるとともに、昨年11月に開催された委員会で検討された事項が審議された。

### (1) 委員会メンバーの追加について。

委員会の仕事の増加と複雑化・多岐化に伴い、また規約中に記載されている任期2年をかながみて、2名の追認を求める。以上の内容は、審議ののち承認された。

### (2) ホームページリンクの規定について。

さまざまな方面からのホームページリンクの要請に対して、学会としてどのようなホームページ先とのリンクを行っていくかの方針を決めておく必要がでてきた。さまざまな議論の上で、委員会では次のように結論された。

ホームページのリンクの承認は1件ごとにホームページ委員会で議論の上、決定する。その場合において、基本的には、商業目的でないこと、学術的に有意義であることを基準とする。この基準を満たすものに関しては、ホームページ委員が積極的にリンクサイトを取り上げる可能性がある。本項目はホームページ委員会細則として明文化する必要がある。

ホームページリンクのために賛助会員となってもらい、さらにリンクを設ける賛助会員に関しては会費を上げる、などの案も挙がったが、やはりそれでも商業目的のサイトのリンクは受け付けられない、逆に賛助会員の中に学術的に有意義なサイトもあり、一概にこの方法は受け入れられないとの議論の上、却下された。以上の内容が審議され、了承された。

### (3) ホームページへの投稿、特に求人に関して

本議題に関しても、基本的にホームページ委員が1件ごとに決定する。求人に関しては、有給のポストと教官公募とし、学生募集に関しては掲載しない。ただし、投稿は事務局になされることになるので掲載内容に関しては基本的には事務局庶務幹事(兼HP委員)の判断にゆだねる。本項目は投稿方法とともに、ホームページ委員会細則として明文化する必要がある。

以上の内容は、審議ののち承認された。

### (4) 会員へのダイレクトe-mailについて（サーキュラーのWeb.化にむけて）

会員への連絡・通知において、e-mailの活用は経費削減のためも含めて今後必須

となることは間違いない。しかし現状では、会員に向けて発信したe-mailの多くがアドレスの不備や異動などで返ってきてしまうなどの問題が多く、e-mail通信の整備は今後の大きな課題の一つである。e-mailアドレス管理の整備は、サーキュラーのWeb.化にも必須の事項であるため、今後数年間、最善の努力を続ける。電子通信網の発達に伴い各種刊行物のWeb.化がさまざまな方面で進められる中、発生物学会のインフォメーションサーキュラーのWeb.化も現実的なものとなってきた。発刊業務の簡便化や経費の大幅削減だけでなく、有益な情報を迅速に会員に知らせる即時性の面からもWeb.化は有意義なものと考えられる。これらのことから、基本的にはサーキュラーは今後Web.化していく方向で検討する。ただし、インターネットを使用しない会員のケアなど、会員の声を十分に考慮しながら進めることとする。

まずはWeb.化についての会員の意見を総会での議題として求めるほか、アンケートの実施によって把握する。Web.化の最大の問題点は、自動的に配布される刊行物と違って、会員が積極的にHPを閲覧しないとサーキュラーが見られない点にある。このためには頻繁に会員に更新情報を伝える必要がある。e-mailアドレス管理の整備を含め、どれくらいの頻度で情報を知らせていくかなど具体的な問題を今後検討していく。まずは刊行物との併用を行い、2、3年後の完全Web.化を目標に進めていく。

e-mailアドレスの管理に関して、具体的に次のような提案がされた。

\* 会員のメールアドレスに関して、機密を守ることを原則に、できるだけ多くの会員のアドレスを学会で管理し、連絡などの運営に活用していく。このとき、アドレスの登録に関して、会員を大きく次の3つに分ける。

- 1、学会にアドレスを登録し、会員名簿にも掲載する。
- 2、アドレスを登録するが、会員名簿には掲載しない。(これに関しては次回(2002年)の新名簿作成の時から、掲載するかしないかの希望を会員に選択してもらう。)
- 3、学会にはアドレスを登録しない。

以上の内容はそれぞれ詳しく審議され、了承された。

# 学術会議報告

2001年3月24日

第4部会員 星 元 紀

昨年7月に第18期日本学術会議が発足いたしました。皆様のご推挙により17期に引き続き会員を務めさせていただくことになりました。学術会議は研究者の声を政府等にボトムアップするための組織と理解しておりますので、取り上げるべき問題等につき皆様のご意見をいただければ幸いに存じます。

さて、今期のこれまでの活動の概略につき、動物科学研究連絡委員会に関わるものを中心に報告いたします。学術会議全体の活動については、雑誌「学術の動向」(月刊、日本学術協力財団発行)に逐一掲載されていますのでご参照いただければ幸いです。また、日本学術会議HP (<http://www.scj.go.jp/>)には、沿革、組織、共同主催国際会議の案内、各種募集、講演会等の日程、公表資料等が表示されておりますので、あわせてご参照いただければと存じます。

すでに皆様ご存じと思いますが、第16期に会員・動研連委員長としてご活躍なされた加納六郎先生が、昨年9月17日にご逝去なされました。ここに慎んでご冥福をお祈りいたします。

1. 第133回総会(第18期第1回)・部会・連合部会等が2000年7月26~28日に開催され役員・委員等の選出、各種委員会委員等の選出・推薦が行われたが、星はヨーロッパに出張中のため欠席した\*。

会 長 吉川弘之(第5部)

副会長 吉田民人(第1部) 黒川 清(第7部)

## 第4部関係

部長 大瀧仁志(化学)

副部長 土居範久(情報)

幹事 岩槻邦男(植物科学) 郷 信広(物理)

また、17期の経過が吉川17期会長より報告された。

なお、生物科学分野の第4部会員には、岩槻会員以外に森脇和郎（遺伝学）、松本忠夫（生態・環境生物学）、矢原一郎（細胞生物学）、松原謙一（分子生物学）、岡田守彦（人類学・民俗学）の諸氏がおられる。また、郷会員はご存知のように生物物理学がご専門である。

\*星は後に学術体制常置委員会（担当：研究環境の改善分科会・大型科学計画分科会）および国際協力常置委員会ICSU分科会に所属することになった。

2. 8月24日に第4部会が開催され、特別委員会及び常置委員会における重要検討事項、17期からの申し送り事項等につき討議されたが、星はカナダに出張中のため欠席した。17期からの申し送り事項をうけ、理科・数学教育問題WG（主査 上野健爾会員）を設置することになった。（後に、星もメンバーに加わった。）

3. 9月28～29日に連合部会・部会が開催され、第18期活動計画（素案）の検討等が行われた。

4. 10月30日に連合部会・部会が、また10月31日～11月2日に第134回総会・連合部会・部会等が開催された。総会では、第18期活動計画が採択され、次の二つの課題に取り組むことが決められた。

①人類的課題解決のための日本の計画（JAPAN PERSPECTIVE）の提案

②学術の状況並びに学術と社会との関係に依拠する新しい学術体系の提案

このため、運営審議会附置として「日本の計画」、「新しい学術体系」の両委員会を設け、運営審議会委員と各臨時（特別）委員会委員長等から構成されるスーパー委員会が両委員会を統括することにした。「日本の計画」委員会は2001年中に提案を取りまとめ公表する予定である。課題”は中長期的ビジョンを示す文書「日本の学術2025」として取りまとめる予定で、「新しい学術体系」委員会は2002年秋までに提案文書を公表できるよう作業することになっている。また、運営審議会に「評価」委員会を新設し、総会ごとに「自己評価報告」を提出することになった。なお、運営審議会附置アジア学術会議委員会には「アジア学術協力ネットワーク形成」小委員会が置かれた。運営審議会附置委員会は合計13委員会となる。

常置委員会は従来通りの6委員会であるが、「俯瞰型研究プロジェクト研究理論」、「価値選択の合理的根拠」、「科学論のパラダイム転換」、「大型科学計画」、「学術研究の評価基準」の新分科会が関連常置委員会に附置された。

臨時（特別）委員会として「価値観の転換と新しいライフスタイル」、「ジェンダー問題の多角的検討」、「ヒューマン・セキュリティの構築」、「情報技術革新と経済・社会」、「循環型社会」、「生命科学の全体像と生命倫理」、「教育体系の再構築」の7委員会がたてられた。

5. 10月30日に生物科学研究連絡委員会が開催され、委員長に森脇会員、幹事に松本会員を選出した。なお、生物科学研究連絡委員会は、岩槻、郷、星、松原、松本、森脇、矢原の4部会員のほか、6部永井和夫、7部安楽泰宏の両会員が参加している。

6. 12月5日に18期第1回動物科学研究連絡委員会（一部は植物科学研究連絡委員会との合同会議）が開催された。委員・オブザーバーの自己紹介の後、委員長等の選出を行ない、委員長に星会員を、幹事に遠藤秀紀、沼田 治、長谷川真理子の三委員を選出した。ついで、18期の活動計画等につき検討し、本委員会としては17期に引続き、ガイアリスト21計画の立ち上げと推進を中心に活動すること等の方針が決定された。また、17期に始まった動物科学・植物科学両研連の合同会議開催を継続すること、17期の勧告「我が国の大学等における研究環境の改善について」の実体化に向け努力する必要があること等が確認された。さらに、植物科学研究連絡委員会との合同会議を行い、今期における合同会議のあり方を検討したのち、研連のあり方、教育問題、科研費問題、研究体制の整備、ポストク問題等を中心に協力して活動することとした。

18期動物科学研究連絡委員会委員は以下の通り。

漆原秀子（発生）	遠藤秀紀（脊椎動物）
大島範子（比較生理生化）	片倉晴雄（生態）
白山義久（分類・生態）	菅原美子（比較生理生化）
高木由臣（原生動物）	高木 尚（生体防御・分子進化）
塚越 哲（古生物・分類）	沼田 治（原生動物・細胞）
長谷川真理子（行動）	星 元紀（発生・生殖）
松田良一（発生）	馬渡峻輔（分類）
道端 齊（生理）	毛利孝之（哺乳類・生殖）
和田 勝（鳥類学・比較内分泌）	

オブザーバー：森脇和郎部会員、松本忠夫会員。

ほかに、日本味と匂学会、日本鳥学会、日本貝類学会、日本鱗翅学会、日本鞘翅学会、日

本蜘蛛学会、日本魚類学会、日本生体防御学会、日本昆虫学会がオブザーバーを派遣している。

7. 12月25日に理学総合連絡会議が開かれ、研連の見直し、科研費の分科・細目の見直しなどが検討された。

8. 2001年1月11日に18期第2回動物科学研究連絡委員会、18期第2回生物科学研究連絡会議、第1回生物科学関係合同研究連絡会議が開催された。

動研連では、臨海実験所、教育、博物館、会議の公開等の問題につき検討し、17期以来検討を重ねてきた「国立大学臨海実験所の再編に関する提言（案）」を本研連からの対外報告書とするよう手続きすること、教育問題WG（主査 松田委員）および博物館問題WG（主査 遠藤委員）を設置することを決定した。

生物研連では、第1回生物科学関係合同研究連絡会議の打ち合わせ、各部及び各研連の動向、第4部会および第7部会報告「タンパク質の構造・機能研究の総合戦略の提案」（案）の説明、セラ社によるヒトゲノムに関する論文のScience誌上への掲載と関連データの公表に関する問題の経過説明\*\*があった。

森脇生物研連委員長の司会で行われた生物科学関係合同研究連絡会議では、開催に至った経緯、各研連の方針等が説明された後、生物科学に関連する教育問題につき検討した。ついで、和田昭允先生（前第4部長）による「生物科学関連の大型予算、科学政策：あり方と現状」の講演があり、これを巡って活発な討論が行われた。

\*\*郷会員等の献身的努力により、「雑誌サイエンスがセラ社と結んだ協定に基づく計画に関し、日本の科学者や学会はそれが将来のゲノム科学及び生物科学全般にもたらす影響について懸念を持っており、学術会議はサイエンスがこの計画を再考することを希望する」旨の12月27日付けScience編集主幹D. Kennedy氏宛て会長書簡の送付、およびその経緯の学術記者会への発表（1月18日）となった。

9. 2月15日に連合部会・部会が開催され、「会議の公開の規則改正」、「人文・社会科学の役割に関する文章作成作業の支援」、「日本学術会議の在り方の検討」等につき検討した。なお第4部会では、動研連提出の対外報告「国立大学臨海実験所の再編に関する提言（案）」、および第4部会および第7部会報告「タンパク質の構造・機能研究の総合戦略の提案」（案）を部会として支持することになった。

10、複合領域研究連絡委員会運営協議会拡大委員会が12月に2回開催され、科研費の分科・細目の変更手続きにつき説明があった。

## カンザス州立大学生物学部タンパク質合成制御研究室では以下のテーマでポスドク（若干名）を募集しています。

研究テーマ：

### 1 リボソームによる開始コドン認識の分子機構の研究。

真核生物ではタンパク質合成はAUGコドンから厳密に開始される。近年の研究で、数多くの翻訳開始因子(eIF)がリボソームと結合しなくてはならないのは主にそのためであることが分かってきた。ここでは、(i) 翻訳開始複合体の構築ルール、(ii) 厳密な開始コドン認識と共役したGTP加水分解の分子機構に焦点をしばって研究をすすめたい。いずれの過程においてもキーとなるのはeIF5という50 kDaのタンパク質で、C末端ドメインで様々な開始因子と結合して機能的な翻訳開始複合体構築の核となる一方、開始コドン認識後はN末端ドメインでGTPの加水分解を促進することが提唱されている。出芽酵母(*Saccharomyces cerevisiae*)をモデル系に、あらゆる手法を駆使して巨大RNAタンパク質複合体の秘密に迫りたい。

### 2 Int-6タンパク質の欠損による癌化の分子機構。

int-6遺伝子はマウス乳腫瘍ウイルスの挿入部位として同定された癌遺伝子であり、ヒト乳癌細胞からもその欠損が報告されている。Int-6は細胞質でeIF3、核ではPML小体と結合することから、翻訳と転写の両方を制御すると考えられているが、Int-6の欠損が癌化に至る分子機構は不明である。分裂酵母(*Schizosaccharomyces pombe*)をモデル系に、Int-6の翻訳機械、転写機械両方への相互作用とその効果、およびそれぞれへの分配機構について明らかにしたい。

締切り：テーマ1担当の1名は直ちに受け入れ可能なので、ポジションが埋まり次第締切らせていただきます。他若干名については2001年夏頃までをめどにいつでも御応募ください。

教科書を書き換えたいという意欲のある人を歓迎します。当研究室は、酵母の遺伝学と生化学を主な手法としますが、テーマ1については、カラムクロマトグラフィーによるタンパク質の精製等、生化学的な手法にたけた人を歓迎します。

興味のある人は簡単な履歴書と論文目録、3人の照会先の住所（電子メール住所含む）を添えて、浅野 桂 (kasano@ksu.edu) まで気軽に電子メールください。研究室と主要論文については <http://www.ksu.edu/biology/bio/faculty/asano/asano.htm> を参照ください。郵送の場合は Katsura Asano, Division of Biology, Kansas State University, 232 Ackert Hall, Manhattan, KS 66506, USA まで。

## (財) 加藤記念バイオサイエンス研究振興財団 第13回加藤記念国際交流助成について

[第13回加藤記念国際交流助成募集要項]

1. 助成対象者：平成13年4月1日から平成14年3月31日の期間に海外で開催されるバイオサイエンス分野の学会、シンポジウム等で研究発表を行う日本国内在住の研究者。
2. 申込資格：応募締切日に35才以下の方（医学系の大学卒業者は37才以下の方）。
3. 助成内容：所要経費の一部を援助する。
4. 助成金額：総額750万円。
5. 援助件数：30件程度（前期；20件程度、後期；10件程度）。
6. 応募方法：当財団所定の申請用紙に必要事項を記入の上、当財団に直接申し込む。
7. 応募締切：①前期；4/1-9/30の期間に発表される方は、  
平成13年5月31日。  
②後期；10/1-翌年3/31の期間に発表される方は、  
平成13年8月31日。
8. 審査方法：当財団の選考委員による審査の上、評議員会議長および理事長の承認を得て決定。
9. 申請書の請求先：下記宛て「はがき」または「ファクシミリ」にてご請求ください。

連絡先：(財)加藤記念バイオサイエンス研究振興財団  
住 所：〒194-8533 東京都町田市旭町3-6-6  
電 話：042-725-2576  
FAX：042-722-8614  
担 当：松浦 智佳子

## 公益信託 成茂動物科学振興基金 平成13年度研究助成募集要領

1. 助成の対象 基礎的な動物科学の研究。
2. 助成の内容 上記研究に対し、助成金を交付する。  
助成金額：約300万円  
1件につき100万円以下とする。  
助成金は、備品、消耗品、謝礼、国内旅費などのほか、  
国外旅費にも使用することができる。
3. 応募の方法 所定の研究助成申請用紙に必要事項を記入して、下記事務局に直接申し込む。  
申込〆切：平成13年7月19日(木)必着。  
申請用紙は、返信用封筒(A4版)を同封のうえ、下記宛請求する。

<事務局> 公益信託 成茂動物科学振興基金事務局

〒100-8212 東京都千代田区永田町2-11-1

三菱信託銀行個人業務推進部

公益信託推進室 担当 小林

## 会 員 異 動

### <新入会員>

(氏名)	(所属)	(住所)	(①テーマ、②材料)
岡 千緒	奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科動物遺伝子機能学	〒630-0101 生駒市高山町8916-5	①TGF-beta、BMPシグナルによる形態形成のメカニズム ②マウス、P19cell、ATDC5CELL、Limb bud
(学)宮本達雄	広島大学大学院理学研究科数理分子生命理学専攻分子遺伝学研究室	〒739-8526 東広島市鏡山1-3-1	①T-brain1のユニホモログHpTb遺伝子のゲノム構造と転写調節機構の解析 ②バフンウニ
(学)瀧上拓也	広島大学大学院理学研究科分子遺伝学講座	〒739-8526 東広島市鏡山1-3-1	①マウスT-brain1のユニホモログ、HpTbの機能解析 ②Hemichentrotus pulcherrimus
(学)谷脇琢也	熊本大学発生医学研究センター臓器形成分野	〒862-0976 熊本市九品寺4-24-1	①genetrap法による遺伝子解析 ②mouse
(学)堂口裕士	筑波大学大学院医学研究科生物系専攻	〒305-8575 つくば市天王台1-1-1	①発生遺伝学 ②chick embryo
(学)笹川 覚	名古屋大学大学院人間情報学研究科	〒464-8601 名古屋市千種区不老町	①両生類の初期発生、形態形成 ②アフリカツメガエル
(学)福井信敬	大阪大学大学院薬学研究科生体機能分子化学分野	〒565-0871 吹田市山田丘1-6	①ES細胞におけるLefty-1遺伝子の転写調節領域の解析 ②

### <会員資格変更>

#### 除名→復活

吉田 学 東京大学大学院理学系研究科附属臨海実験所 〒238-0225 三浦市三崎町小網代1024

#### 海外→国内

大倉 正也 大阪大学歯学部口腔外科学第一講座 〒565-0871 吹田市山田丘1-8

笹土 隆雄 科学技術振興事業団近藤誘導分化プロジェクト 〒606-8305 京都市左京区吉田河原町14  
近畿地方発明センター

#### 海外→国内

西野光一郎 東京大学大学院農学生命科学研究科 〒113-0032 文京区弥生1-1-1

応用動物科学専攻応用遺伝学教室 農学部7号館702

国内→海外

井上 高良 Stowers Inst.for Med.Res. 1000 E.50th St., Kansas City, MO64110, U.S.A

<住所変更>

山本 雅之 筑波大学先端学際領域研究センター分子発生物学 〒305-8577 つくば市天王台1-1-1

岩崎師寿江 国立小児病院小児医療研究センター分子細胞薬理研究部 〒154-8509 世田谷区太子堂3-35-31

山本 嘉幸 Evolutionary Developmental Biology, Dept.of Biology, The Univ. of Maryland  
College Park, MD 20742, U.S.A

小林 一也 慶應義塾大学理工学部化学科星研究室科技団さきがけ研究21  
〒223-8522 横浜市港北区日吉3-14-1矢上校舎

古川 和広 新潟大学理学部化学科生化学 〒950-2181 新潟市五十嵐二の町8050

小阪美津子 科技団・若手「タイムシグナルと制御」領域テクノサポート岡山309  
〒701-1221 岡山市芳賀5301

吉川 俊一 テキサス大学

杉山 伸 名古屋大学大学院生命理学研究科生命統御大講座発生統御グループ  
〒464-8602 名古屋市千種区不老町

木村 芳滋 東京医科歯科大学難治疾患研究所形質発見 〒113-0034 文京区湯島1-5-45

尾身 実 c/o Dr. Caroline N.Dealy, Dept.of BioStructure and Function, Univ.of Connecticut Health Ctr.  
263 Farmington Ave., Farmington, CT 06030, U.S.A

横井 勇人 国立遺伝学研究所初期発生研究部門 〒411-8540 三島市谷田1111

森 誠一 福井医科大学生化学第一 〒910-1193 福井県吉田郡松岡町下合月23-3

池田満里子 慶應義塾大学理工学部先端科学技術研究センター304 〒223-8522 横浜市港北区日吉3-14-1

日原 冬生 愛媛大学理学部生物地球圏科学科 〒790-8577 松山市文京町3

安田 恵子 奈良女子大学理学部生物科学科 〒630-8506 奈良市北魚屋西町

大原たかね (株)アールテック・ウエノ (米出向中) 〒103-0023 中央区日本橋本町2-5-5  
上野製薬ビル2F

佐藤 元信 ヒューマンサイエンス研究資源バンク 〒590-0535 泉南市りんくう南浜2-11

平沼 勉 関西労災病院歯科口腔外科 〒660-8511 尼崎市稲葉荘3-1-69

榎屋 啓志 理化学研究所ゲノム科学総合研究センター動物ゲノム機能情報研究G  
〒244-0804 横浜市戸塚区前田町214

黒谷(和泉)明美 文部科学省宇宙科学研究所宇宙基地利用研究センター 〒229-8510 相模原市由野台3-1-1

中尾 啓子 大阪大学大学院医学系研究科D12神経機能解剖学研究部 〒565-0871 吹田市山田丘2-2

堀-大嶋 沢子 〒226-0026 横浜市緑区長津田町3016-1-715

大久保 悌 Yale Child Study Ctr. 230 S.Frontage Rd., SHM I-257, New Haven, CT 06520, U.S.A  
 荒木 功人 Michael Brand's Lab., Max-Planck Inst., CBG Pfortenhauer Str. 108, D-01307 Dresden, Germany  
 多田 正純 Dept. of Anatomy and Developmental Biology, Univ. Coll. London Gower St., London WC1E 6BT, U.K.  
 小池 亨 Program in Molecular Immunology, CA 2045, Inst.of Molecular Med. and Genetics  
 Med. Coll. of Georgia, 1120 15th St., Augusta, GA 30912-2600, U.S.A

坂本 啓 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科分子病態 〒113-8549 文京区湯島1-5-45

久保田一政 理化学研究所脳科学研究センター発生分化研究グループ近藤隆研究室

〒351-0198 和光市広沢2-1

大江 智也 九州大学大学院理学研究院生物科学部門 〒812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1

西岡 武史 徳島大学総合科学部人間自然環境科 〒770-8502 徳島市南常三島町1-1

島山 淳 岡崎国立生理学研究所脳形態解析部門 〒444-8585 岡崎市明大寺町字西郷中38

<退会>

宮田 雄平	渡邊 俊樹	楊 仙玉	川口 四郎	酒井 彦一
高本 薫	長谷川 通雄	藤田 哲也	安田 峯生	野田 洋一
野村 晃司	原 幸喜	西山 一朗	内山 三郎	片岡 裕子
栗栖 浩二郎	村上 正弘	高橋 源尚	金 吉中	飯村 忠浩
稲垣 忍	志村 保雄	乳井 誠一郎	亦勝 実穂	鈴木 真紀
亦勝 和	江川 智哉	高橋 身奈	菊池 慎一	富士野 行男
星野 善一郎	高田 邦昭	浅野一三好美咲	鈴木 和美	岸 昌生
吉岡 秀郎	山内 靖隆	栃谷 史郎	岸 憲幸	加納 桂次

〔賛助会員〕

生命誌研究館

〒569 高槻市紫町1-1  
-1125 TEL 0726-81-9750

先端テクノロジーをサポートする日京テクノス(株)

〒113 文京区本郷2-17-8鈴木ビル  
-0033 TEL 03-3814-2066

三菱化学生命科学研究所

〒194 町田市南大谷11号  
-8511 TEL 0427-24-6226

(有)共進理工“細胞分別”ナイロンメッシュ

〒113 文京区本郷5-13-1ドエル本郷205  
-0033 TEL 03-3813-1073

## 賛助会員へのご入会のお願い

日本発発生物学会  
会長 竹市雅俊

近年、ライフサイエンス、バイオテクノロジー等の言葉が広く語られ、生物学に大きな関心と注目が払われるようになってまいりました。

日本発発生物学会は、発発生生物学の進歩と普及をはかるため設立された学会で、日本を主に、外国の発発生学者を混じえて約1,300名を結集しております。発発生学は、言うまでもなく医学・農学等の諸分野とも深い関連を有しており、最近とみに進展の著しい遺伝情報発現をめぐる諸問題、癌細胞の基礎的研究、老化の問題等も発発生生物学の大きな関心の的になっております。日本発発生物学会は、これらの分野での活発な研究者を会員としております。又、本学会の刊行致しております欧文誌“Development, Growth and Differentiation”(DGD)もこの方面の国際的学術雑誌として高く評価されております。

貴社におかれましては、このような学問の重要性をすでに御承知のことと存じます。何卒、本学会趣旨に御賛同の上、賛助会員として本会を御支援賜りますよう御願ひ申し上げます。

なお、賛助会員は年3回発行される「インフォメーション・サーキュラー」誌上に特記され、本会の刊行する欧・和文刊行物(会員名簿を含む)が配布されます。会費は、一口三万円を申し受けております。御入会の際は、入会申込書を事務局までお送り下さい。

連絡先：日本発発生物学会事務局(井出宏之)

〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉 東北大学大学院理学研究科生物学教室内

TEL:022-217-3489 FAX:022-217-3489

e-mail:jsdb@bcasj.or.jp

-----切-----り-----取-----り-----線-----

### 日本発発生物学会賛助会員入会申込書

年 月 日

賛助会員として入会の申し込みを致します。

( \_\_\_\_\_ 口 \_\_\_\_\_ 円)

住 所

会 社 名

Ⓜ

担当者名  
電話番号

## 広告掲載のお願い

日本発生生物学会は理学、医学、薬学、農学をはじめ分子生物学、細胞生物学、遺伝学など、さまざまな生物学分野で発生生物学の基礎研究に興味を持つ内外の研究者によって組織されている学会であり、国内外に約1,300人の会員を持っております。

英文学術雑誌 *Development, Growth and Differentiation* は、日本発生生物学会の機関誌で年6回発行し、国内に約1,200部、国外に約600部配布致しております。また会員にはインフォメーション・サーキュラーを年3回配布致しております。

目下、本学会では広告主を募っております。会員各位におかれましても広告主のご紹介等、是非ご協力頂きますようお願い致します。

### 広 告 料

DGD本誌	1 頁	年6回	150,000円
	半 頁	〃	78,000円
インフォメーション	1 頁	年3回	90,000円
サーキュラー	半 頁	〃	45,000円

尚、サーキュラー用の版下作製代は実費をいただきます。裏表紙は1頁10,000円高となります。

申込先：日本発生生物学会事務局（井出宏之）

〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉 東北大学大学院理学研究科生物学教室内

TEL:022-217-3489 FAX:022-217-3489

e-mail: jsdb@bcasj.or.jp

----- 切 り 取 り 線 -----

### 広告申し込み書

年 月 日

日本発生生物学会 御中

広告の掲載をお願いしたく下記の通り申し込みます。

<input type="checkbox"/> DGD本誌	1 頁
<input type="checkbox"/> 〃	半 頁
<input type="checkbox"/> サーキュラー	1 頁
<input type="checkbox"/> 〃	半 頁
住 所	
会 社 名	
担当者名	
電話番号	

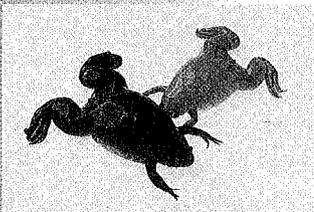
印

XENOPUS  
Oocyte

# ホームページ開設

## XENOPUS

- 思われた自然環境の下で育った良質のアフリカツメガエル。

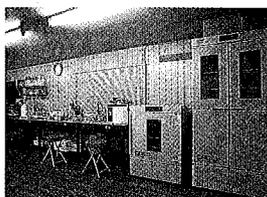


## Oocyte

- 飼育管理に時間をとれない方や、実験を効率よく進めたい方にはOocyteを直送致します。



<http://www.copacetic.co.jp>



## COPACETIC

株式会社コパセティック

〒036-1511 青森県中津軽郡相馬村大字坂市沢113-3

TEL 0172 (84) 3509 FAX (84) 3510

フリーダイヤル：0120-084896

フリーダイヤル      ゼノパスはクローン

